



# 布施だより

## 《 第51代生徒会 ～ 無効票0 (\*^o^\*) ～ 》

第51代生徒会正副会長選挙立ち合い演説会が11月17日(火)にありました。

候補者諸君はまっすぐに公約を訴えます。〈思いやりにつながる挨拶を〉〈メリハリのつくチャイム着席を〉〈生徒ひとりひとりの考えを尊重し合える話し合いの場を〉〈活気と笑顔溢れる学校を〉〈自信と絆をキーワードに〉〈お世話になっている地域の方々へ貢献を〉等々です。

昨年度も同様の感想を抱いたのですが、気づくと、聴いている生徒諸君は水を打ったように静寂を保ち、顔を挙げています。ステージ上では、候補者と責任者の二人が気持ちを揃えて深々とあいさつをします。文末を「・・・お願いいたします。」と敬体を使いこなします。

ピンと空気が張り詰めるのは、まっすぐに候補者の諸君の思いを受け止めようとする全校生徒諸君がいてくれるからです。11月始めに行われた学年内選挙を思い返していました。公約を伝える表情は、まだまだ声も小さくて、自信なげで、姿勢も定まらず、でも理念と目標だけははち切れんばかりに抱えていて、それをみんなに分かってほしくて、応援してほしい。そしてリーダーになって、みんなのために働きたくて・・・そんな思いが充満した候補者の皆さんのメッセージでした。また公約を支える責任者諸君がその人柄を押す理由を〈汚れた配膳台を自分から拭ける〉〈学級で仲間をちゃんと注意できる〉〈一人になって清掃に向き合える〉と、それぞれ伝えてくれていました。21人の候補者の真っ直ぐな志が、「51年目の第1歩」につながった学年内選挙でした。各クラスの候補者・責任者の皆さん、大変ご苦労様でした。選挙活動を通して得た貴重な経験は、これからの生活に必ず生きていきます。



第51代生徒会を全校で、全力で、支えていこうという思いにさせてくれる演説会でした。ここまで心を砕いて準備を整えてくれた選挙管理委員の皆さん、ありがとうございました。

選挙を終え、新たに選出された橋爪駿介さん、渡利康生さん、石川瞳さんの三役諸君が週明けの職員室にあいさつにきてくれました。

・・・そしてとっても嬉しい知らせがありました。今年の生徒会選挙での投開票の結果、「無効

票は0！」でした。これも生徒会員全員の気概そのものの表れです。

## 《 言葉を身につける 》

11月26日(木)には、「第2回外国語等児童指導研修会 兼第3回長野市日本語指導連絡協議会」が開催され、国際室の授業題材は「地図で知ろう・教えよう」でした。学習問題は「山田さんは、西中学校の校門にいます。篠ノ井駅に行きたいです。でも、山田さんは場所が分かりません。友だちの佐藤さんに聞きます。会話文を考えてください。」です。3人の生徒たちは、「北」「南」「右」「左」の漢字の読みをスタートに、「今日は土曜日です。(実際は木曜日だったのに)」「〇〇Tは優しいです。」の楽しい「〇×クイズ」で言葉の exercise を行い、この日の学習のベースワードになる「ガードレール・信号機・郵便局」の言葉を、スライドを見ながら口ずさんでいきます。そして実際に下見で歩いた軌跡を、地図上に確認していきます。その間、生徒たちは徹頭徹尾正しい言葉に触れていきます。「ここはどこですか?」「これは何ですか?」「会話文を考えてください。」正しい言葉に触れることが正しい習得につながるという国際室担当の先生方の信念が伝わってきます。そして、この授業の眼目は



「道順が言える」とどまらず「会話文」にするところです。道順が言えるだけでは正しい日常会話につながりません。対話のノウハウを学び、語順や文脈を整えていく、そして会話を確実に身に付け、使えるようにしてあげる。言葉の初期指導に触れながら、自身の言葉のありようを振り返る絶好の機会でした。国際室の生徒たちは30人の参会者に囲まれながらも、一刻でも早く言葉を習得したいという意欲が声や表情や動作に表れた追究を地道に重ねていてくれました。

## 《 共感 》

11月21・22日(土・日)に長野県としては初めての開催となる「第67回 全国人権・同和教育研究大会～信州発! そのあとに続くすべての世代のために～」があり、全体会場を「ホワイトリング」に、市内17分科会場(篠ノ井西中、通明小、東部中、櫻ヶ岡中、ホクト文化ホール等)、須坂市・千曲市に4分科会場、計21分科会に10,000人余の参会者の皆さんが全国より集いました。篠ノ井西中では、第1分科会「人権確立を目指す教育の創造～部落問題を始めとする様々な人権問題を目指す教育をどう創造しているか～」の分散会場となりPTA正副会長様にも参加いただき、400

名の参会者で西体が埋まりました。

篠西中分散会では「福岡、山口、神戸、京都、長野」の5名の方の実践報告があり、集団不適應、不登校、貧困、いじめ、平和・・・と教育実践が語られていました。その中での言葉です。

○「あなたにとって部落とは何ですか。」・・・それぞれの違いを土台としているのが「差別」です。

「部落」には本質的な違いはありません。日本人の風土・歴史・文化が問われているのが「部落」です。

○「生活を綴る」・・・暮らしの中で大切なことを見させる。差別を乗り越える力をつけさせてやりたい。自分でつながりを作っていく力、子どもの全ての生活と向き合っていないと。徹底的に関わっていくことで、自分自身が変容していきたい。

○「共感してもらおうこと」・・・離婚を経験した時、最も厳しかったことは、女性差別に対して共感してもらえなかったこと。けれど部落差別の学習に参加して、仲間から共感してもらったことによって、私のことはもういいから、他の人のことを考えたいと思えるようになった。子どもたちひとりひとりの現実に「共感」していきたいのです。

子どもたちの成長についての実践発表をしながら、参会者の先生方は、自分自身を語っていたようです。何よりも印象的だったのが、「人権が守られている空間」の中で、真摯な討論がなされていた2日間でした。参加させていただいて貴重な経験をすることができました。



全国から参集された先生方が、生徒諸君に整えてもらった環境に感謝して日本各地へお帰りになりました。来年第68回大会は九州熊本での開催となります。

## 《 初冬の大収穫！ 》



< 書道 > 第59回 JA 共済書道コンクール 入選

宮林さくらさん、棚田夏生さん、伊藤綾音さん、上條凜さん、森奈乃佳さん（1年）  
富田なつみさん、酒井亜美さん（3年）

< 作文 > 税についての作文 長野地区納税貯蓄組合連合会長賞

1年 大内柚奈さん「税金について私が思うこと」

< 柔道 > 第24回長野県柔道ジュニア強化指定選手選考会 11月29日(日) 於：三郷村  
3位 市川弥さん（73kg級）